

# 中学校部活動における生徒のライフスキル獲得と 生徒からみた指導者のライフスキル指導との関係

日野 克博<sup>1)</sup>

**Relationship between acquisition of life skills and instruction about life skills of leader  
in club activities of junior high school**

Katsuhiro Hino<sup>1</sup>

**Key words : life skills, junior high school, club activities**

**(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education,  
Ehime University, 7,39-44, March, 2010)**

キーワード：ライフスキル、中学校、部活動

## I はじめに

2008年3月に学習指導要領が改訂され、生きる力の重要性が改めて示された(文部科学省, 2008)。いじめ、不登校、自殺、引きこもりなど現代の社会背景を要因とする様々な問題が生じているなかで、生きる力の育成は学校教育における重要な課題になっている。生きる力とは、「自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力」として提言され(中央教育審議会, 1996)、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育むこととされている。しかし、「生きる力」は、広く抽象的な表現であり、その獲得や成長について客観的な成果や具体的な到達度を示すことは難しい。

そこで、近年、「生きる力」と類似した意味をもつ「ライフスキル」が注目されている。ライフスキルとは、「日常生活で生じるさまざまな問題や欲求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義されている(WHO, 1997)。ライフスキルは非常に多様であり、その中核的なスキルには、意思決定、創造的

思考、効果的コミュニケーション、自己意識、情動への対処、問題解決、批判的思考、対人関係スキル、共感性、ストレスへの対処などがある。上野ら(1998)は、ライフスキルの獲得の程度を測定する調査票を開発し、これを適用して、高校生のライフスキルの獲得状況を確認している。さらに、開発した調査票を活用し、スポーツ活動を経験する中で獲得できる競技状況スキルの存在や、それらが日常の生活に役立つライフスキルに般化することを明らかにしている。例えば、運動部活動で練習メニューを作成するスキルは生活のなかで計画的に準備を進めるスキルとして、チームメイトや指導者と情報を交換するスキルはコミュニケーションスキルの形成に影響することを指摘している。

ところで、学校教育において、ライフスキルの獲得に大きな期待が寄せられているものの1つに部活動がある。部活動は、新学習指導要領において、「学校教育の一環」として、「学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するもの」としてその意義が具体的に明記された(文部科学省, 2008)。これまでも、部活動は生徒の心身の健全な育成と豊かな人間形成を図る上で、大きな意義をもつものとして語られてきた(文部省, 1997, 茨城県教育庁保健体育課, 2002)。「生きる力」の育成が求められる今日の学校教育において、部活動の果たす役割は益々大きくなることが予想される。

1) 愛媛大学教育学部  
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,  
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,  
〒790-8577, Japan

しかしながら、部活動の教育的な成果については、多くの教員が実感しているものの、十分に検証されてきたとは言い難い。また、部活動では、指導者が生徒に与える影響は少なくない。指導者のライフスキルに関する指導や部活動への積極的関与(コミットメント)が生徒のライフスキル獲得に大きな影響を与えていると考えられる。

そこで本研究では、上野ら(2000)の先行研究を参考に、中学生を対象に生徒のライフスキルの獲得と、指導者のライフスキルに関する指導や指導者の部活動への積極的関与がどう関係しているか、検証することにした。なお、本研究では、指導者のライフスキルに関する指導並びに積極的関与について、生徒に普段の部活動で最も影響を受けている指導者をイメージして回答させるようにした。指導者の直接的な回答ではないものの、生徒からみて指導者のライフスキルに関する指導や部活動への積極的関与がどのように受け止められ、それらが生徒のライフスキルの獲得にどう影響しているかを調べることは、部活動の活性化を図る上で重要な視点であると考えた。本研究を通して、生徒のライフスキル獲得と部活動の指導者との関係が示されれば、部活動に対する指導者の意識改善につながる事が期待される。

## II 研究の方法

### 2-1. 調査対象及び調査時期

愛媛県内の公立中学校3校の1~3年生989名を対象に質問紙調査を行った。調査は、2008年12月中旬に、各学校の体育授業担当者を通して実施した。調査の結果、有効な回答が得られた930名(有効回答率94.0%)について分析を行った。分析対象となった生徒の内訳は、表1のとおりである。

表1. 調査対象の内訳

学校	学年	部活動加入状況
Y中学校 251名	1年生 300名	運動部 617名
H中学校 307名	2年生 318名	文化部 254名
I中学校 372名	3年生 312名	未加入 59名

### 2-2. 調査票と調査方法

#### 1) 調査票の作成とデータ処理

##### (1) 生徒のライフスキルの獲得状況に関する調査

上野らの研究(2000)で用いられたライフスキル尺度の項目を参考に調査票を作成した。ライフスキル尺度は日常生活における行動を問う4次元12項目からな

っており、それらは、計画遂行(項目1, 4, 8)、情緒コントロール(項目2, 5, 9)、コミュニケーション(項目3, 6, 11)、組織性(項目7, 10, 12)で構成されている(表2)。

質問項目への回答は「大変あてはまる」~「全くあてはまらない」までの7件法により実施した。データの処理として、「大変あてはまる」を7点、「全くあてはまらない」を1点とし、順に7~1点までの点数を与えた。それらの得点をもとに平均点を算出して生徒のライフスキル得点とした。

表2. ライフスキルに関する項目

(上野, 2000を参考)

1. 目標が達成できるように計画は具体的に立てる
2. 少しのことで怒らない
3. 誰とでも気軽に話す
4. 時間的に無理のない計画を立てる
5. 怒りそうになっても冷静になるように心がける
6. 人と話をすることは特に難しくない
7. 自分勝手に行動して周囲に迷惑をかけない
8. いつまでに目標を達成するかを考えて行動する
9. 落ち着いて物事を考える
10. みんなで決めたことには従う
11. 近所の人とも気軽に話ができる
12. 仲間といるときは相手のことも考えて行動する

##### (2) 生徒からみた指導者のライフスキル指導に関する調査

(1)の調査で用いた質問項目と同様のものを適用し、生徒が指導者のライフスキルに関する指導をどう受け止めているか調査した。生徒に普段の部活動で最も影響を受けている人をイメージさせ、部活動を通して指導者から指導を受けているかについて、項目ごとに「大変あてはまる」から「全くあてはまらない」の7件法により回答させた。質問項目への回答並びにデータ処理は(1)と同様に行った。

##### (3) 生徒からみた指導者の運動部活動に対する積極的関与に関する調査

上野ら(2000)の研究で用いられたコミットメントに関する質問項目を適用した。質問項目は「参加」、「重要」、「時間」、「お金」、「エネルギー」の5項目で構成されている。質問項目は、表3に示す通りである。

質問項目への回答は先行研究にあわせ5件法により実施した。データの処理として、「全く〇〇である」を5点、「全く〇〇でない」を1点とし、順に5~1点までの点数を与え、積極的関与の得点とした。

表3. 指導者の積極的関与に関する項目

- 1. 部活動にどの程度参加しているか
- 2. 部活動はどの程度重要だと思っているか
- 3. 部活動に進んで時間を費やしているか
- 4. 部活動に進んでお金を費やしているか
- 5. 部活動に進んでエネルギーを費やしているか

### Ⅲ 結果と考察

#### 3-1. 生徒のライフスキルの獲得状況

運動部生徒及び文化部生徒が未加入生徒と比較してライフスキルをどの程度獲得しているかを確かめるために、生徒のライフスキル得点について分散分析を行った(表4)。その結果、「計画遂行」「コミュニケーション」「組織性」において有意差が認められた。さらに、それらについて Scheffe 法による多重比較を行ったところ、「計画遂行」「組織性」では未加入生徒よりも運動部生徒と文化部生徒が、「コミュニケーション」については文化部生徒、未加入生徒よりも運動部生徒が有意に高い得点を示した。「計画遂行」とは目標達成に向けて計画立てて取り組む等のスキルであり、「組織性」とは仲間に迷惑をかけないように集団として行動する等のスキルのことである。これらのスキル得点は、運動部活動、文化部活動に関わらず部活動に参加している生徒の方が高くなっていった。さらに、誰とでも話ができるといった「コミュニケーション」については、運動部活動に参加する生徒の得点が有意に高くなっていった。部活動では、活動の中で目標となる試合や発表会を設定し、それに合わせて練習計画を立て実行する場面が頻出する。また、部活動では異学年が同一集団として活動することを基盤にしているため、対人的な関わりや集団のなかでの役割行動を果たす機会が多く出現する。そのことが、生徒のライフスキル獲得に影響していると推察できる。生きる力の育成が重要な課題とされる今日の教育活動において、部活動への参加

表4. 生徒のライフスキルの獲得状況

	運動部 (N=617)	文化部 (N=254)	未加入 (N=59)	F値
計画遂行	13.8 (3.15)	13.5 (3.28)	12.2 (3.76)	6.83** 運、文>未
情緒 コントロール	14.9 (3.10)	14.9 (3.37)	13.8 (3.58)	2.88
コミュ ニケーション	16.2 (3.40)	15.5 (3.86)	14.3 (4.36)	9.33*** 運>文、未
組織性	16.5 (2.81)	16.5 (3.15)	15.1 (3.04)	6.26** 運、文>未

\*\*\*P<.001, \*\*P<.01

がライフスキルの獲得により効果がみられることは、部活動の意義を再認識することができる。

#### 3-2. 生徒からみた指導者のライフスキルに関する指導

部活動で身につけたスキルがライフスキルに般化していくには、ライフスキルの獲得に関連した指導者の働きかけが影響していると予想される。そこで、指導者のライフスキルに関する指導(以下、指導者のライフスキル指導)を生徒はどのように受け止めているか、生徒のライフスキル調査と同様の項目を用いて調査した。表5は、その結果を示している。

表5. 生徒からみた指導者のライフスキル指導

	運動部 (N=617)	文化部 (N=254)	T値
計画遂行	16.0 (3.60)	15.9 (3.81)	0.35
情緒 コントロール	14.5 (3.92)	16.0 (4.14)	-5.20***
コミュニケーション	15.9 (3.86)	16.5 (3.94)	-2.10*
組織性	16.6 (3.84)	17.1 (3.73)	-1.96

\*\*\*P<.001

表5より、どの次元も21点満点で概ね15点以上の得点を得ており、生徒は指導者のライフスキル指導を肯定的に受け止めていることがわかる。

運動部生徒は「組織性」「計画遂行」「コミュニケーション」「情緒コントロール」の順に、文化部生徒は「組織性」「コミュニケーション」「情緒コントロール」「計画遂行」の順に得点が高くなっていった。ともに、「組織性」が高くなっており、指導者の「組織性」のスキルに関する指導が生徒には強く受け止められていた。また、運動部と文化部を比較すると、「情緒コントロール」と「コミュニケーション」において、有意差が認められ、これらの次元は、文化部生徒の方が指導者のライフスキル指導を強く受け止めていた。

このことから、部活動において指導者がライフスキルに関する指導を行っていることを生徒も自覚していることが確認できた。また、そのなかでも「組織性」のスキルに関連した指導の受け止め方が高くなっていった。部活動は、生徒の自主的・自発的な活動として1年生から3年生、あるいは男女が集団を形成して活動が展開される。そのため、普段の学校生活とは異なる集団を機能させるうえで、指導者の「組織性」に関する指導が、生徒に強く受け止められていると推察でき

る。「自分勝手な行動をしない」「仲間に迷惑をかけない」「相手のことを考えて行動する」といったスキルは、部活動だけでなく、日常生活での集団行動でも大切にされる必要があり、そのことが生徒の意識にも強く伝わっていると考えられる。

### 3-3. 生徒からみた部活動に対する指導者の積極的関与

生徒のライフスキルの獲得には、部活動への指導者の積極的関与も影響していると考えられる。そこで、生徒からみた指導者の部活動への積極的関与について尋ねたところ、表6のような結果になった。どの項目も5点満点で4点前後の得点を得ており、生徒は指導者の部活動への積極的関与を肯定的に受け止めているといえる。また、運動部と文化部で比べると、すべての要素で有意差は認められなかった。このことから、運動部、文化部に関わらず、指導者は部活動に積極的に関与していると、生徒は受け止めていることがわかる。学校教育の一環として部活動が位置づけられていることから、本来、部活動への指導者の関与の程度に運動部も文化部も違いのないことが理想であり、生徒の受け止め方からもそのことが確認された。また、部活動への参加、意識、時間、お金、エネルギーといった積極的関与の要素間で大きな差はみられなかったことから、生徒は特定の要素から指導者の部活動への積極的関与を評価しているのではなく、総体的に指導者の積極的関与をみていていると考えられる。

表6. 生徒からみた指導者の積極的関与

	運動部 (N=617)	文化部 (N=254)	T値
参加	4.6 (0.90)	4.3 (1.01)	1.26
重要	4.0 (1.01)	3.9 (1.13)	1.38
時間	4.1 (0.99)	4.1 (1.04)	0.48
お金	3.9 (1.03)	4.0 (1.07)	0.89
エネルギー	4.1 (1.06)	4.0 (1.06)	0.10
総計	20.5 (4.07)	20.3 (4.49)	0.65

### 3-4. 生徒のライフスキルと指導者のライフスキル指導との関係

生徒のライフスキルと指導者のライフスキル指導との間にどのような関係がみられるかを確認するために、生徒のライフスキル得点と生徒からみた指導者のライフスキル指導の得点との相関（ピアソンの積立相関係数）を調べた。その結果は表7-1、表7-2のとおりである。

表7-1より、運動部ではすべての次元間で有意な関係が認められた。また、表7-2より、文化部では生徒のライフスキルの「情緒コントロール」を除く次元間で有意な関係が認められた。さらに、運動部、文化部のどちらとも「計画遂行」「組織性」において、生徒のライフスキルと指導者のライフスキル指導との関係が他と比べて強くなっていた。また、文化部と比べ運動部の方が比較的に高い数値の傾向がみられた。

これらのことから、指導者からライフスキルに関する指導を受けている意識が高いほど、生徒のライフス

表7-1. 生徒のライフスキルと指導者のライフスキルに関する指導との関係（運動部） N=617

生徒の ライフスキル	生徒からみた指導者のライフスキル 指導			
	計画 遂行	情緒 コントロール	コミュニ ケーション	組織性
計画遂行	.261 ***	.153 ***	.202 ***	.224 ***
情緒コントロール	.187 ***	.175 ***	.178 ***	.206 ***
コミュニケーション	.251 ***	.215 ***	.273 ***	.249 ***
組織性	.318 ***	.282 ***	.241 ***	.371 ***
総合	.344 ***	.278 ***	.304 ***	.344 ***

\*\*\*P<.001

表7-2. 生徒のライフスキルと指導者のライフスキルに関する指導との関係（文化部） N=254

生徒の ライフスキル	生徒からみた指導者のライフスキル 指導			
	計画 遂行	情緒 コントロール	コミュニ ケーション	組織性
計画遂行	.264 ***	.235 ***	.242 ***	.266 ***
情緒コントロール	.054	.095	.050	.088
コミュニケーション	.197 **	.152 *	.209 ***	.171 **
組織性	.261 ***	.243 ***	.255 ***	.345 ***
総合	.271 ***	.251 ***	.264 ***	.300 ***

\*\*\*P<.001 \*\*P<.01 \*P<.05

キルの獲得状況も高くなる傾向が確認できた。部活動において、ライフスキルに関する指導を実践して生徒に意識づけることが、生徒のライフスキル獲得にも影響することが示唆された。そして、その関係は、運動部の生徒においてより強くなることが想定され、指導者のライフスキル指導をより充実させることで、運動部の生徒のライフスキルに強い影響を与えていくことが推察される。中学生年代の部活動では、指導者の影響力が強く、指導者のライフスキル指導を重要視する必要がある。

なお、前述の表5では、指導者のライフスキル指導の「情緒コントロール」は、文化部の方が有意に高い値を示していたが、生徒のライフスキルと指導者のライフスキル指導との相関では、有意な関係はみられなかった。ことから、指導者のライフスキル指導が生徒のライフスキルの獲得につながっていくには、指導者の具体的な指導内容や指導方法、あるいはライフスキルの指導プログラム等について詳しく検証していく必要があるといえる。

### 3-4. 生徒のライフスキルと指導者の積極的関与との関係

生徒のライフスキルと指導者の部活動への積極的関与との関係を見るために、生徒のライフスキルと指導者の積極的関与との関係について相関(ピアソンの積立相関係数)を調べた。その結果は、表8-1、表8-2のとおりである。

表8-1より、運動部において、生徒のライフスキルと指導者の積極的関与との間で有意な関係が認められなかったのはライフスキルの「情緒コントロール」と積極的関与の「参加」「重要」「お金」との関係で、それ以外は有意な関係が認められた。一方、表8-2より、文化部ではライフスキルの「組織性」と積極的関与の「重要」「時間」「お金」「エネルギー」とで有意な関係は認められたが、それ以外では有意な関係は認められなかった。

このことから、運動部では、指導者が運動部活動に積極的に関与していることが生徒に強く伝わるほど、生徒のライフスキル得点が高くなると考えられる。運動部では、生徒のライフスキル獲得に指導者の部活動に対する姿勢や態度等が影響しており、指導者の部活動の指導に対する真摯な姿勢が影響力をもっていると推察される。一方、文化部では、指導者の積極的関与と生徒のライフスキルとの間には強い関係はみられなかったことから、指導の具体的な内容や他の要因について検討する必要がある。

表8-1. 生徒のライフスキルと指導者の積極的関与との関係 (運動部) N=617

生徒のライフスキル	指導者の積極的関与				
	参加	重要	時間	お金	エネルギー
計画	.108	.129	.143	.165	.178
遂行	**	**	***	***	***
情緒コントロール	.044	.045	.087	.057	.103
			*		*
コミュニケーション	.111	.119	.141	.111	.146
	**	**	***	**	***
組織性	.115	.173	.184	.178	.173
	**	***	***	***	***
総合	.128	.157	.187	.172	.203
	**	***	***	***	***

\*\*\*P<.001

表8-2. 生徒のライフスキルと指導者の積極的関与との関係 (文化部) N=254

生徒のライフスキル	指導者の積極的関与				
	参加	重要	時間	お金	エネルギー
計画	.110	.187	.099	.138	.134
遂行					
情緒コントロール	-.025	-.032	-.072	-.043	-.076
コミュニケーション	.074	.083	.089	.057	.071
組織性	.105	.175	.148	.128	.138
		**	*	*	*
総合	.092	.141	.092	.096	.092
		*			

\*\*P<.01 \*P<.05

## IV まとめ

本研究では、中学生930名を対象に、部活動に参加する生徒のライフスキルの獲得状況と、それらに指導者のライフスキルに関する指導や積極的関与が関係しているか、運動部生徒、文化部生徒、未加入生徒にわけて検討した。その結果、以下のことが明らかになった。

- ・ 部活動に未加入の生徒に比べ部活動に参加している生徒ほど、ライフスキルの「計画遂行」「組織性」の得点が高くなっていた。
- ・ 文化部や部活未加入の生徒に比べ運動部に参加している生徒ほど、ライフスキルの「コミュニケーション」の得点が高くなっていた。
- ・ 生徒からみて、指導者からライフスキル指導を受けている意識の程度とライフスキル得点との

間に有意な関係が認められた。

- ・ 生徒からみて、指導者の積極的関与の程度とライフスキル得点との間に有意な関係が認められた。
- ・ 文化部よりも運動部に参加している生徒の方が、ライフスキル得点と指導者のライフスキル指導や積極的関与との間に、強い関係がみられた。

これらのことから、学校教育の一端を担う部活動は、生徒のライフスキルを育む有効な場になり得るものとして位置づけることができる。また、部活動に参加していれば、自ずとライフスキルが身につくというわけではなく、その効果には指導者のライフスキルに関する意図的な指導や積極的関与が必要であるといえる。

今後の課題として、生徒のライフスキル獲得に影響があると考えられる指導者のライフスキル指導や積極的関与について、指導者への直接的な調査により、その関連性や要因をさらに深く検討する必要がある。また、ライフスキルは多数のスキルで構成されており、部活動で獲得されやすいスキルや効率的・効果的に身につけられるスキルを明らかにし、その習得のための具体的な指導についても検討していく必要がある。ライフスキルの獲得にむけたより具体的な指導内容や指導プログラムが提供されれば、部活動の充実につながっていくと考えられる。そして、今後、ライフスキルに関する研究や実践が増えていけば、部活動の教育的価値を問い直したり、部活動の新たな可能性を見出すことにつながっていく。また、ライフスキルの獲得は、部活動だけでなく、体育授業や学校生活も関係し

ており、多様な視点からの検証が求められる。

## 文献

- 中央教育審議会 (1996) 「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」 答申。
- 茨城県教育庁保健体育課 (2002) 第 31 集学校体育指導資料「望ましい運動部活動の在り方」。
- 文部省 (1997) 運動部活動の在り方に関する調査研究報告書。
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説保健体育編。東山書房。
- 杉山佳生, 渋谷崇行, 西田保, 伊藤豊彦, 佐々木万丈, 磯貝浩久 (2008) 学校体育授業を通じたライフスキル教育の現状と展望。健康科学 30 : 1-9。
- 上野耕平・中込四郎 (1998) 運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究。
- 上野耕平, 田中雅人, 須藤好子 (2000) 運動部活動における生徒のライフスキル獲得とコミットメントの関係。愛媛体育学研究 4 : 12-18。
- WHO: 川端徹郎他訳 (1997) WHO・ライフスキル教育プログラム。大修館書店: 東京。